

今週の為替相場見通し(2020年11月24日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		103.66 ~ 105.13	103.87	103.70 ~ 105.70
ユーロ	(ドル)		1.1815 ~ 1.1893	1.1856	1.1800 ~ 1.1950
(1ユーロ=)	(円)		122.85 ~ 124.44	123.17	122.00 ~ 124.80
英ポンド	(ドル)		1.3167 ~ 1.3312	1.3289	1.3200 ~ 1.3400
(1英ポンド=)	(円)	*	134.88 ~ 137.39	135.98	137.00 ~ 139.00
豪ドル	(ドル)		0.7255 ~ 0.7339	0.7303	0.7200 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	73.19 ~ 75.48	75.02	75.30 ~ 76.80

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 103.70 ~ 105.70 円

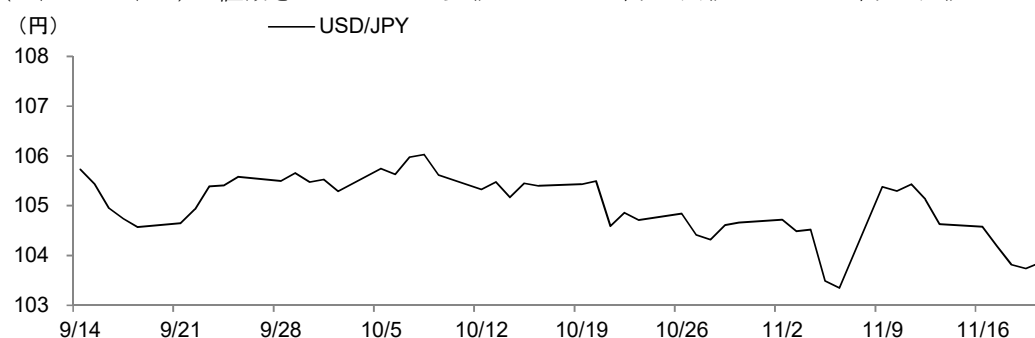
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は下落する展開。週初16日、104円台後半でオープンしたドル/円は、米バイオテクノロジー企業が新型コロナウイルスのワクチンの有効性を示した報道を好感すると、一時週高値となる105.13円まで上昇。しかし米11月NY連銀製造業景気指数の市場予想を下回る結果を受けてドル売りが強まると、ドル/円は104円台半ばまで反落した。17日は、英国とEU間での貿易交渉が来週火曜日に決まる可能性があるとの報道に、ポンド買い・ドル売りが強まり、ドル/円は104円台前半まで下落した。18日、冬場にかけての国内外での新型コロナウイルスの感染拡大が意識されリスクオフの円買いが強まると、ドル/円は、103円台後半まで下落。その後は米10月着工件数の市場予想を上回る結果を好感すると、104円ちょうどまで値を戻したが、株式市場がプラス圏で推移する中、ドル売りが持ち込まれると、一時週安値となる103.66円をつけた。19日もリスクオフムードから円買いが進み、ドル/円は103円台後半で揉み合い推移が継続した。週末の20日は目ぼしいイベントに欠ける中、ドル/円は103円台後半を中心とした小動きの推移に終始した。週初23日はドル/円は反発。米11月各種PMIが予想を上回る好結果となったことを好感し、104円台後半まで上昇した。

今週のドル/円は昨日の米指標の好結果を好感した流れを引き続き堅調な推移が継続しそう。但し、今週は月曜日が本邦休日、木曜日から週末にかけて米感謝祭で休日となっており、市場参加者が限定的となる中、上値は限定的と予想。24日(火)には米11月消費者信頼感指数、米11月リッチモンド連銀製造業指数、また25日(水)には米10月卸売在庫、米第3四半期GDP改定値、新規失業保険申請件数、米10月耐久財受注、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数、米11月新築住宅販売件数の発表が相次いで予定されている。消費、製造業、雇用などの動向によっては更なるマーケットセンチメントの改善も期待できるかもしれない。また、25日は11月に開催したFOMCの議事要旨が公表される。市場予想通り大規模緩和は据え置かれたが、コロナ蔓延の深刻化を受けて来月会合における追加措置の可能性を議事要旨の内容から探る展開となるだろう。今週は市場参加者が限られる中、大きな相場の動きは期待していないが、景気見通しの動向やそれに伴う追加の金融政策への思惑などから来週以降の相場動向を方向づける手がかりがつかめる一週間となりそうだ。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/16~11/20)の値動き: 安値 103.66 円 高値 105.13 円 終値 103.87 円



2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 逸見 久貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.1800 ~ 1.1950 122.00 ~ 124.80 円

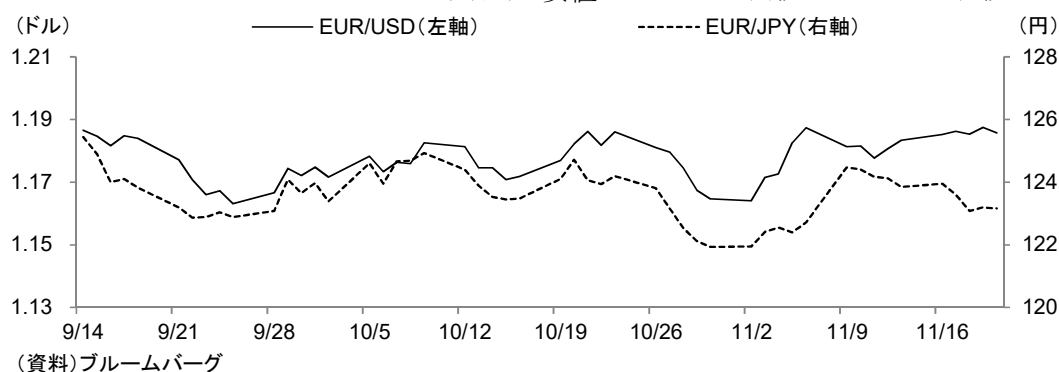
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロドルは小幅に上昇。週初、1.18台半ばでオープン。日中韓を含む東アジア15カ国が地域的、包括的経済パートナーシップ協定に署名したことで、リスクオンのドル売りが入ると、ユーロドルは堅調に推移。その後、コロナワクチン開発の進展に関する報道を受け、米金利が上昇したことでドル買い地合いとなると、週安値1.1815レベルまで下落。翌17日、リスクオンの流れから高金利通貨である中国元に対しドルが売られたことや、ブリグジット交渉の進展期待が高まり、ポンドなどの欧州通貨が強含む中、1.19台手前まで上昇。18日、コロナワクチンの有効性を示す報道によって、再び米金利が上昇する展開に、1.18台半ばまで下落。19日、世界各地でコロナ感染の再拡大が懸念され、株式市場は総じて軟調に推移。リスクオフのドル買いが優勢の中、ユーロは上値重く推移し1.1817付近まで下落。一巡後は、米金利の低下やポンド、豪ドルに対してドル売りが強まったことに加え、「23日にEUと英国が貿易合意を発表する可能性がある」との報道を受け、ユーロは1.18台後半まで上昇。週末、前日に米国のコロナ感染者が過去最多を更新したことや米長期金利の低下によるドル安要因によって、ユーロは堅調に推移。1.18台後半まで上昇した。

今週のユーロは上値の重い推移を想定。コロナワクチン開発の進展期待が高まったものの、有効性や安全性などを踏まえれば、ワクチン完成によるコロナ収束に向けて、まだ時間がかかる見込み。むしろ、世界各国で感染が再拡大している中、再び経済の停滞が懸念されリスクオフ地合いとなる可能性が高いであろう。米金利の低下に伴いドル安が進行し、ユーロドルが押し上げられる展開を想定している。一方で英・欧州の貿易協議については、交渉担当者のコロナ感染によって協議中断の後、速やかにリモートで再開されるなど、合意に向けて動いているように見えるが、2016年にブリグジットが決定して以降、泥沼化していることを鑑みれば、合意への期待感は盛り上がり難く、節目である1.19手前にかけて上値は重くなるであろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/16~11/20)の値動き: (対ドル) 安値 1.1815 高値 1.1893 終値 1.1856
(対円) 安値 122.85 高値 124.44 終値 123.17



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3200 ~ 1.3400 137.00 ~ 139.00 円

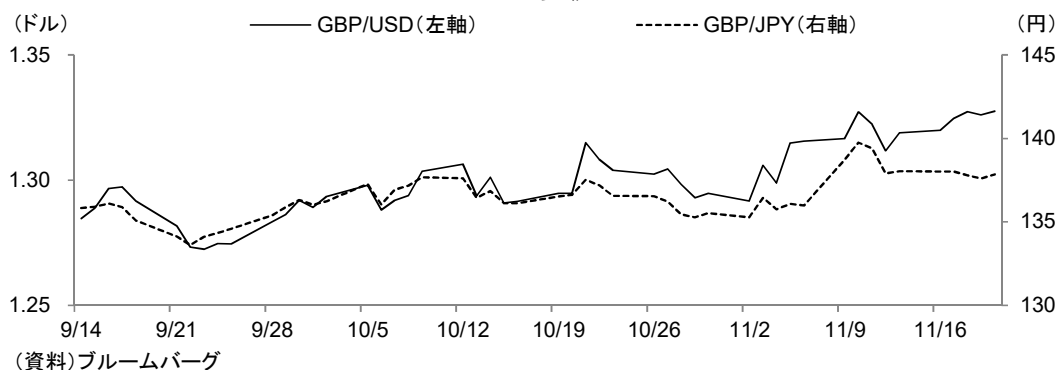
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、小動き。対ドル、対ユーロでは堅調に推移し、水準を小幅切り上げたが、対円では膠着に終始し、結局、水準を若干切り下げた。ポンド/ドルの値動きはドル指数(ICE)の強弱とほぼ一致しており、ポンド固有の値動きの乏しさを物語っていた。19日のEU首脳会合(サミット)にむけて合意が期待された英とEUの将来関係交渉は、目立った進捗がないまま、時間の経過と共に期待は徐々に失望に変わっていったが、直前に「サミットには間に合わないものの、翌週には合意の可能性が高い」といった観測が報じられた。また、19日には、「(EU側を代表する)バルニエ首席交渉官が交渉を中断した」との報が広がり、交渉打ち切りに対する懸念を高めたが、EU側の交渉担当者の一部に新型コロナ感染者が出たための措置であることが伝えられ、交渉継続に大きな支障はないことが確認された。ただ、一連の経緯がポンドに与えた影響は定かではなかったし、仮にあったとしても小幅、かつ一時的にとどまった。20日発表された英10月小売売上高が市場予想を明確に上振れた事実は、ポンドにとって好材料には違いなかったものの、現在までに再びロックダウン(経済活動制限)に入った英国の消費が、先月、思ったよりも強かったからといって、ポンドを持続的に押し上げる要因になるとは考え難かった。ドルの値動きに影響した要因としては、新型コロナウイルスのワクチン開発で、先に大きな進展が確認されたのは別の製薬会社などからも、ワクチン開発に大きな進展が伝えられたことが考えられた。ただし、株価全般が結局軟調に引けたり、円堅調が先行したりした経緯は、この手の報がもたらす楽観を、既に金融市場が大きく織り込んでしまった可能性を感じさせた。ユーロに対するポンド堅調の背景には、19日のサミットにむけて、EU中期予算/復興基金承認の遅延が警戒されたことによるユーロ側の失点 が影を落としていたようだ。

今週の英ポンド相場は、堅調気味の横這い継続を予想。移行期間終了までひと月半を切って、将来関係交渉の出口は引き続き見えない。この間も「来週にも合意」などという楽観は聞こえてきたものの、離脱交渉が始まった3年半前から、「合意は可能」との楽観と「問題点は残存」との悲観は常に同時に観測されてきた。事此处に至って、合意への道筋は未だ霧の中と思われる。そのこと自体が交渉に進展がない事実を裏付けるわけではないが、仮に今週中に何の合意も結ばれなかったとしても、市場は「単にもう1週間延びただけ」といった気楽な受け止め方を繰り返すのではなかろうか。目先のポンド堅調を見込むのは、目に見える進展の欠如にもかかわらず続く足下堅調に、ポンド売り持ちの積み上がりを感じるから。先週のポンドの値動きにも、確かに、ユーロの自滅やドルの頭打ちなど、ポンドそのものとは関係ない要因が作用していたが、ポンドが堅調を維持していたのは事実であろう。であるならば、目先、具体的な好材料を欠いたまま、今しばらくのポンド堅調が続いたとしても驚くには値しないと見込む。万が一、今週、合意のようなものが結ばれた場合には、相応のポンド上昇は見込まれるものの、本格的な上昇基調の確定には時期尚早と思われる。通関や製品検査などの現場が、年明け早々から円滑な運営をするには、既に時間が足りなくなってしまったと考えられるからだ。16年6月の国民投票結果が明らかになった時点でポンドが暴落したのは、離脱に向けた「経過」を嫌ったわけではなく、離脱の「結果」を懸念したからに他ならない。離脱が英経済の衰退につながるとの警戒感が払拭されたわけではない以上、ポンドの反発余地にも自ずと限界はあろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/16~11/20)の値動き: (対ドル) 安値 1.3167 高値 1.3312 終値 1.3289
(対円) 安値 134.88 高値 137.39 終値 135.98



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 0.7200 ~ 0.7350 75.30 ~ 76.80 円

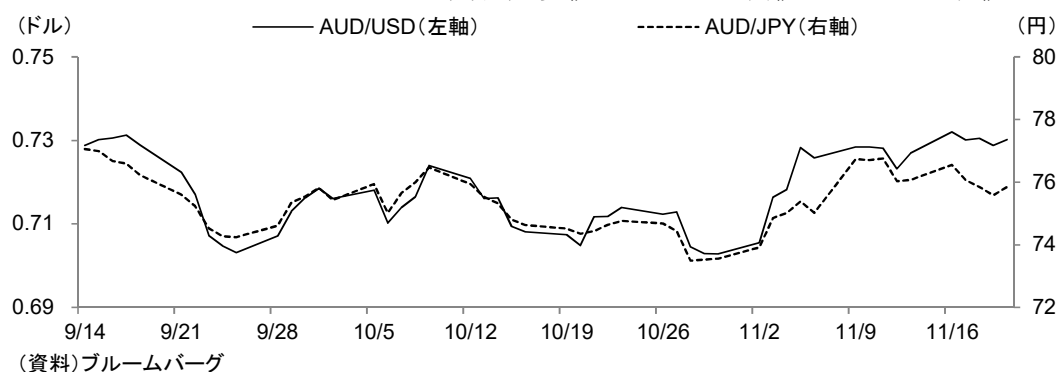
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週11月16日～23日の豪ドルは0.73を挟みでの揉み合いに終始。週初16日は0.726台でオープン。中国10月鉱工業生産が市場予想を上回ったことによる人民元高に連れ高となり、0.73台へ。RBA総裁の講演でマイナス金利導入の可能性が低いことが再度強調されたことや、ワクチンの治験結果が良好であったことにもサポートされ底堅い推移となり、0.732の高値圏でクローズ。17日は11月RBA議事要旨が公表されたものの、目新しい内容はなく反応は限定的。米10月小売売上高が市場予想を上回ったことによるドル売りにより、一時週高値の0.7399まで上昇する場面も見られたが、それ以上の上値を追う展開とはならなかった。18日は豪Q3賃金指数が過去最低を記録したことやNYの学校閉鎖報道、ワクチン開発の進展等、強弱入り混じる展開に方向感の定まらない推移。前日と同水準のレンジ内での値動きに留まった。19日は豪雇用統計の発表を控え0.728台まで下落したが、豪10月雇用者数や失業率が予想比良好な結果だったことにより、0.73台を回復。その後は広範なドル買いにより一時0.725台まで下落したものの、米追加経済対策の協議再開との報道によりややドル売りに転じ0.728台まで上昇してクローズ。20日はワクチン緊急使用許可の申請が行われたとの報道等、ポジティブなヘッドラインを背景にドル売りが継続。0.73台を維持して超週した。23日はNZ3Q小売売上高の予想比良好な結果だったことによるNZ高に連れ高となり、週高値付近まで上昇。しかしその後は、米11月PMIの結果が予想を上回ったことによるドル買いに押され、一時0.726台まで下落し、0.7287でクローズ。

今週の豪ドルは、先週と同程度のレンジ内での値動きを予想。先週はRBA総裁講演でのマイナス金利導入可能性が低いことの強調や、雇用統計の市場予想値良化等、国内でのポジティブな内容の材料があったが、為替市場の反応は鈍くレンジ抜けには至らなかったことからわかるように、現状最も相場に影響を与えるのは、ワクチン開発の進捗をはじめとする新型コロナウイルス関連のヘッドラインとなろう。24日(火)には、RBA副総裁の講演も予定されているが、先週の総裁講演からもサプライズになるような内容はないと思われる。その他に特取引材料となる経済指標等の発表が予定されていない中、豪国内での新規感染者拡大に対する強い警戒感から依然として上値が重い状況が継続。ワクチン関連のヘッドラインが出ないようだと、レンジ内での値動きに留まることが想定される。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/16～11/20)の値動き: (対ドル) 安値 0.7255 高値 0.7339 終値 0.7303
(対円) 安値 73.19 高値 75.48 終値 75.02



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。